

母の往診浣腸

頃は昭和、ある中流家庭の主婦紀子は、三人の娘を持つ母親です。

娘達の健康を大事に思う紀子は、年頃の女の子に特有な便秘の治療でイチジク浣腸は手放せません。

日常では娘達に浣腸をする立場ですが、熱を出し寝込んでいた紀子は、お医者さまに大きな浣腸器で治療を受けることになったのです。

末娘の裕子が覗き見た、母のお浣腸の記憶です。

母の診察

今でも忘れられない事があります。私が小学生の頃に母がお医者様にお浣腸された時の事です。確か母が39歳、私が小学6年生の時でした。

母が高いお熱を出して寝込み、お医者さまが呼ばれました。

母は居間の隣の六畳間に寝ていて、お医者と看護婦さんが部屋に入り診察が始まりました。

私は何が始まるのかと好奇心でドキドキして、廊下の障子のガラス窓から覗き見していました。

お医者母の寝巻きの前を広げて聴診器を当て、お腹を押ながら診察しています。

「奥さん！ ここはどうですか？ ここ押すと痛いですか？ ここツ、だいぶ硬いですね。

ここは！？」

「先生！ そこッ！ そこ痛いわッ：：！ アッ！ イタイッ！」

お手伝いのお節が手洗い桶を持って入っていきました。

先生は母のお腹を押しながら

「いつからお通じ無いのです?」

「先生： もうお便秘して五日になりますの：」

「これじゃ便が秘結していますよ。お辛いでしよう！ このままでの排便は難しいでしょうから、まず浣腸して便を出して様子をみましょう！」

看護婦さんがお節にぬるま湯を持つてくるように言いつけて、黒い靴から薬品や青い硝子の浣腸器、赤色のゴムの管を出して並べ、浣腸の準備を始めました。

日頃から私たちの浣腸に慣れているお節は、急いで薬缶と硝子のボール、それに新聞紙と差込便器をとつてきて看護婦さんの横に置いています。

看護婦さんは薬缶のお湯でお薬を調合し、ボールにいつぱいの浣腸薬を用意しました。

お浣腸される母

看護婦さんが、

「奥様！ これからお浣腸しますので壁の方をお向きになって、お尻をお布団の端に出すようにしましょう！ お布団を汚すといけませんので、この上にお尻お乗せ下さい。」

防水布を広げてお布団の上に敷き、母のお尻を布団の端に突き出るような姿勢にしました。

先生がお浣腸をし易くしたのです。

母は大きなお尻を先生の前に突き出して、お浣腸を待っています。

看護婦さんは母のお尻を開き、肛門に何かを塗り込んでいました。

看護婦さんが頷くと、先生は赤いゴムの管を母の肛門にゆっくりと刺し入れ始めたのです。

母は肩で息をしながら布団を握っています。

看護婦さんが、

「奥様、肛門を閉めると辛いですから、排便するようにすこし息むと楽に入ります！」

母の突き出したお尻から赤いゴムの管を垂らしている母の姿を見て、心臓がドキドキして、肛門がム

ズムズしたのを覚えています。

先生が管を入れ終わると、看護婦さんから硝子の浣腸器を受け取って、肛門からぶら下がる赤いゴム管に浣腸器を繋ぎながら

「奥さん！ これから浣腸しますから、口呼吸して力を抜いて楽にしてください。」

先生はゆつくりと浣腸器を圧して、お浣腸を始めました。

母はお薬が入ると切なそうに枕を握り締め、

「アア、ハアン、アアッ！」

お尻を震わせました。看護婦さんは母のお尻に手を添えて、

「ちよつと我慢してください！ もう少しお浣腸しますから！」

先生は、空になった浣腸器を外してお薬を吸い上げ、また管に繋ぎお浣腸を続けます。

母は肛門から赤い管を垂らしたまま、苦しそうにお尻を突き出し、次のお浣腸を待っています。

母は繰り返し5回ものお浣腸をされてしまいました。

お浣腸が終わると先生は、管をゆつくり引き抜き始め、母は一層お尻を突き出すようにして、管を

抜かれています。

看護婦さんが素早く母の肛門を脱脂綿で押さえました。

抜き取られた赤い管と浣腸器は浣腸液が空になった硝子のボールに入れられヌメヌメと光っています。

看護婦さんが肛門を押さえたままお節の顔を見て、

「お便器と新聞紙をお願いします！ こつちへくださいッ！」

母のお浣腸便

お節が用意していた差込便器に新聞紙を敷いて渡すと、

「奥様！ お浣腸が終わりましたので上向きになりましょう！ 少しお尻をあげて下さい！」

差込便器を母のお尻に当てがい、母のお股を広げて肛門に便器を当てています。

それを見て先生は、手を洗って立ち上がり、

「この後は看護婦が見ますから、後で誰か薬を取りによこさない。」
と言って帰って行きました。

母はこれから看護婦さんとお節の見ている前でお便秘を出すのです。

私は興奮で動悸が収まらなくなりました。

母は、お浣腸の恥ずかしさと苦しさで涙目になっています。

先生のお浣腸の量が多かったので、お便所まで行けずに、便器を当てられ身を振ってお便の我慢をしています。

「アア、ダメそう！ もう出してもいいでしょう！ 苦しくて！」

布団の端をギュツと握って悩ましそうに悶えています。

「もう少し我慢なすって下さい！ 硬い便が出口にありますので、肛門が切れると後が難儀しますから！ お薬が良く滲みて柔らかくしてから出すようにしましょう！ もう少しの我慢です！」

看護婦さんは時々、押さえた手を離し、母の肛門の様子を診ています。

「アアー！ もうダメツ！ ハヤク出したいの！ 許して！」

母は看護婦さんの手で肛門を押さえられながら、お尻を振るわせて悶えます。

看護婦さんは腕時計を見て

「さあ！ 奥様！ 時間になりました。どうぞ！」

無理なさらずに、息まずにゆっくりお出してください！」

と言って、母のお股に畳んだちり紙を載せました。

それは後で判りましたが、母がお便を出す時、おしっこが飛び散らないようにするためだったので。

「アア！ 出してしまうツ！ 恥ずかしいわ！ イヤンツ！ もうダメツ！ 恥ずかしいツ！
イヤツ！」

母は我慢が切れて、お便が出初めてしまったのです。

「うん！ アアン！ イヤだわーッ！ 見ないでちょうだい！」

母の肛門が奥から押し出されるように広がり、最初の硬いお便を便器にニユルツと落としました。おしっこが流れ出すと同時に太い柔らかそうなお便が続いて出てきます。

ブイ！ ビビビーツ、ブブブブン！ ニユルニユルン、ビビーツ！

大きな音と一緒に、山盛りのお便を便器に出されてしまったのです。

「奥様！ たくさんお出しになりましたね！

これでお熱も下がり、ご気分も落ち着くと思います。」

看護婦さんは母の肛門を丁寧に脱脂綿で拭いて状態を診ています。

「奥様！ お上手に出来ました！ 肛門も綺麗で傷ありませんので、ご安心下さい。」

母が出す女の匂い

看護婦さんは浣腸器の片付けをしています。お節が便器を持って小走りにお便所へ向かいました。

私は母の出したお便が見たかったのですが、お節に言い出せずに流されてしまいました。

母はお便秘を出して気分が良くなったのか、落ち着いた声になって

「お陰様で楽になりましたわ！ 臭かったでしょう！ ごめんなさい。

本当に恥ずかしかったわ！」

「いいえ奥様！ お浣腸ですから、仕方ありません。奥様はお産の時もお浣腸の経験何度もお有りでしょう？ 今日はお便秘が良く出たようでした。明日様子を診てもう一度お浣腸致しましょうか。まだお腹の奥に古い宿便が残っていると思いますので！ この際お腹を綺麗に洗っておきましょう。」

「明日もまた?! お浣腸は何度されても恥ずかしいわね！ でもこのお便秘ではしょうがないわ！ 明日もよろしく願います。」

私は母のお浣腸が終わった様子に、

「お母さん！ 大丈夫？ お腹治ったの？ もう痛くないの？」

と言ってお部屋に飛び込み、母に抱きつきました。

お部屋の中は、母の出したお便の匂いと、大人の女の人のいい匂いが混ざり合い、頭がボーッとなりました。

この時の母の身体の匂いは、私をお浣腸する時に出る匂いでした。

母がお浣腸される時も同じ匂いを出すことを、今日初めて知ったのです。

翌日は看護婦さんのお浣腸でした。その時は母のお浣腸を看護婦さんの側で見えていました。

お腹に残った古い宿便を出して、お便秘の癖を治すためのお浣腸だと看護婦さんに聞きました。

お浣腸が終わると、母は便器に跨って今日も沢山のお便を出したのです。

その時の母は顔が上気し、とても美しく見えました。

私は、なぜか恥ずかしさを感じて、お浣腸が終わった母に抱きつくと、今日もまたお便の匂いに混ざって、母のいい匂いがしたのです。

それはきつと、お浣腸で気持ちが高揚するときに出る、大人の女の人の匂いだと思います。

私も大人になったら、お浣腸で同じ匂い出すのかと思うと、恥ずかしいような、不思議な気持ちになりました。

これは私が見た母の忘れられないお浣腸の記憶です。

<https://www.spaceinga.com/>
SPACE 銀河